

夏秋イチゴ養液栽培における有機質培地の利用

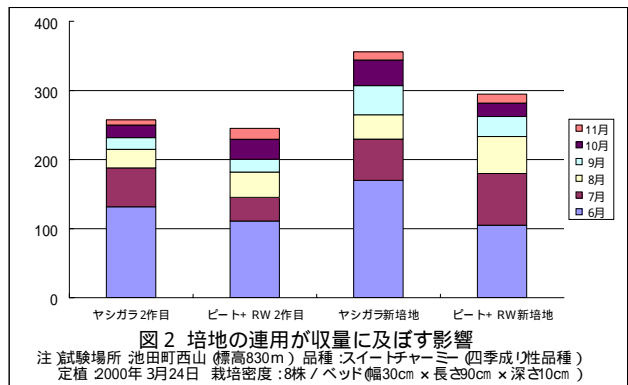
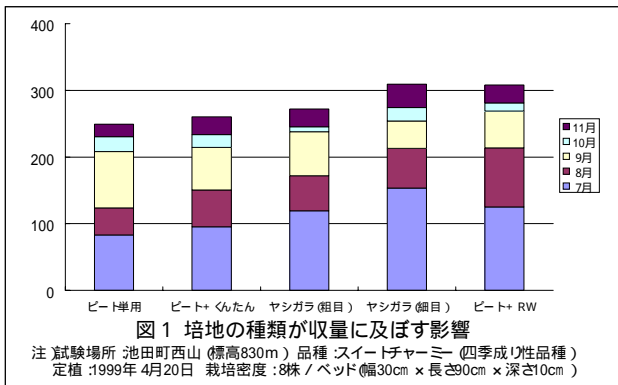
夏秋イチゴ養液栽培の培地は、ピートモスとロックウール粒状綿を混合したものが用いられています。ロックウールは分解され難い培地であるため、使用後の処理に困っています。ロックウールを使用しない有機質培地としてヤシガラ培地の利用が可能であり、ヤシガラ培地に替えることで、土壌へのすき込み処理が容易になります。



夏秋イチゴ産地（標高900m）

夏秋イチゴの養液栽培における有機質培地は、ヤシガラ培地（細目）が適しており、ピートモスとロックウール混合培地（3：1）より収量が増加しました（図1）。

ヤシガラ培地は、培地を連続使用しても、ピートモスとロックウール混合培地より優れています。（図2）。



ヤシガラ培地



ヤシガラ培地での栽培状況

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

農業研究所

中山間担当

TEL (0883) 72-0239

FAX (0883) 72-6868

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>